

解説

コメント募集「非公開企業会計基準改善会議を設置する計画」

米国財務会計基準審議会（FASB）国際研究員 かわにし やすのぶ 川西 安喜

はじめに

2011年10月4日、米国財務会計基準審議会（FASB）の母体組織である財務会計財団（FAF）の評議員会は、コメント募集「非公開企業会計基準改善会議を設置する計画」を公表した。FAFの評議員会は、この文書において、非公開企業のための会計基準設定プロセスを改善するために、非公開企業会計基準改善会議（PCSIC）を設置することを提案しており、この提案についての市場関係者からのコメントを募集している。コメント期限は2012年1月14日である。

本稿では、この文書について解説する。FASBのボード・メンバーやスタッフが個人の見解を表明することは奨励されており、本稿では、筆者個人の見解が表明されている。会計上の問題に関するFASBの公式見解は、厳正なデュー・プロセス、審議を経たものに限られている。

背景

(1) 2つの目標の両立

1972年の設立以来、FAFは、比較

可能な財務情報を提供するような会計基準を開発することと、さまざまな企業の個別のニーズに応えるような会計基準を開発することを両立することに苦心してきた。これらの目標を両立することは、特に、非公開企業と非営利組織を含む、公開企業以外の企業において困難であった。

ここ10年間で、ビジネスや取引が、よりグローバルに、より複雑になった。企業間の財務報告の比較可能性を維持することを資本市場が重視するようになってきたにもかかわらず、公開企業の財務諸表の利用者のニーズと、非公開企業の財務諸表の利用者のニーズはさらに乖離したと主張する人もいる。

(2) 非公開企業に関する論点への着目

2006年、FASBは、自身の会計基準設定プロセスに非公開企業の関係者の見解を更に組み込むための取組みの一環として、非公開企業財務報告委員会（PCFRC）を設置した。PCFRCは、大小の非公開の営利企業を代表する議長と12人の委員により構成され、非公開企業のための会計基準設定に関連する論点についてFASBに対して提案を行い、会計基

準設定活動が、非公開企業の日常業務にどのような影響を与えるのかに着目することが使命とされた。

PCFRC設置の3年後、FAFの評議員会は、全国の関係者の意見を聞いて回った。ほとんどの関係者は、その時点においても、非公開企業のための会計基準のコストと複雑性を懸念しており、また、FASBとPCFRCの協調の結果に満足していなかった。PCFRC設置後、数年間は、FASBがプロセスに完全に参加していなかったり、PCFRCの提案に十分に注意を払っていなかったと考える関係者もいた。さらに、これらの関係者は、PCFRCによるFASBへの関与は効果的ではなく、非公開企業の関係者の利害を代表していなかったと述べた。これらの関係者は、FASBとPCFRCが、非公開企業のために、米国会計基準に例外や修正を設けるためのフレームワークを開発することがなかったことを、主要な問題点として挙げた。

(3) 非公開企業のための会計基準設定に関するブルー・リボン・パネル

上記のような懸念を踏まえ、FAFの評議員会は、米国公認会計士協会（AICPA）と全米州政府会計審議会

連合会（NASBA）と共同で、非公開企業のための会計基準設定に関するブルー・リボン・パネル（以下「ブルー・リボン・パネル」という。）を設置した。ブルー・リボン・パネルは、非公開企業の財務諸表の利用者のニーズを調査し、どのようにすれば会計基準設定プロセスがそのニーズを満たすのかについて、FAFの評議員会に提案を行う責任を負った。

このほかに、FASBは、非公開企業のための会計基準設定プロセスを改善するための追加的な施策を行った。そのような施策には、次のようなものがある。

- ・ 非公開企業を公式に代表し、非公開企業からインプットを求めることに特化した専門職のチームを結成した。
- ・ 非公開企業に関する論点について、複数回にわたる円卓会議を開催した。
- ・ 非公開企業のための会計基準が、公開企業のための会計基準と異なることが正当化されることがあるのか、また、あるとすれば、それはどのような場合であるのかを識別するためのフレームワークの開発に着手した。
- ・ 非公開企業の関係者が米国会計基準の変更に関する情報を得られるよう、教育を拡充した。
- ・ 非公開企業の関係者が情報にアクセスしやすいように、専用のウェブサイトを立ち上げた。
- ・ 非公開企業の関係者がより容易にFASBの提案に対してコメントできるように、ウェブ上でフィードバックのためのフォーラムを開設した。
- ・ のれんの減損、収益認識、及び金融商品に関する会計基準の設定

に当たり、非公開企業の懸念に具体的に対応する意思決定を行った。

2011年1月、ブルー・リボン・パネルは、FAFの評議員会に対し、提案を記した報告書を提出した¹。その報告書では、非公開企業のために、米国会計基準に対する例外又は修正を行うための、FAFの監督下に置かれた、新しい別個の権威ある会計基準設定主体の設立が提案された。

(4) ワーキング・グループ

2011年3月、FAFは公開企業以外の企業の会計基準設定のあり方をさらに検討するため、数名のFAFの評議員とFAFの要職にあるスタッフを指名し、ワーキング・グループを発足させた。

ワーキング・グループは、非公開企業及び非営利組織の財務諸表の利用者、実務家、及び作成者から大量のインプットを得た。ワーキング・グループはまた、非公開企業及び非営利組織の懸念をFASBがどのように検討しているのかについて、現行のプロセスをレビューした。具体的には、ワーキング・グループは、非公開企業及び非営利組織に対してサービスを提供する実務経験を有する、大手、中堅、及び小規模の会計事務所代表者を含む関係者と会合を重ねた。

ワーキング・グループは更に、非公開企業及び非営利組織の財務報告に関連する論点をレビューした又は調査を行った学会の代表者とも会った。また、ワーキング・グループの代表者は、財務会計基準諮問会議（FASAC）、PCFRC、非営利諮問委員会（NAC）、及び中小企業諮問委員会（SBAC）を含むFASBの諮問グループとの会合にも参加した。

ワーキング・グループの代表者は、

貸付者、投資家、規制当局、寄付者その他とも会合を行った。また、ワーキング・グループは、募集していないにもかかわらず寄せられた2,800通を超えるレターの内容を検討した。そのほとんどは、非公開企業のために別個の会計基準設定主体を設立することを提案したブルー・リボン・パネルを支持した。

主な結論

上記のようなアウトリーチ活動とブルー・リボン・パネルの報告書を分析した結果、FAFの評議員会は、次の主な結論に達した。

- ・ 非公開企業の関係者のニーズを会計基準設定プロセスにおいて扱うために、FASBとPCFRCにより、近年著しい改善が行われたにもかかわらず、意図する目的は全て達成されなかった。言い換えれば、非公開企業のニーズは、意図したほど徹底的に又は直接的に扱われなかった。
- ・ 非公開企業のニーズが適切に会計基準設定プロセスにおいて対処していることを確実にしめるための新しい体制の一部として、PCFRCを廃止し、権威と範囲が拡大した新しい機関、すなわち、PCASICを設置すべきである。
- ・ 新しい体制を立ち上げるに当たっての本質的な要素として、PCASICは、FASBと共同で、非公開企業のために、米国会計基準に対する例外又は修正が正当化されることがあるかどうか、また、あるとすれば、それはどのような場合であるのかを判断するための具体的な規準を開発する責任を負うべきである。その規準については、一

般からのコメントを募集することになる。

- 新しい規準を用いて、PCSIは、米国会計基準に対する具体的な例外又は修正について、これを開発し、審議し、公式に議決すべきである。PCSIの会議にはすべてのFASBのボード・メンバーが出席し、PCSIの審議の結論は、FASBの承認を必要とすべきである。承認された例外又は修正について、その後、一般からのコメントを募集すべきである。コメント期限到来後、PCSIは、FASBのボード・メンバーが出席する公開の会議において提案された例外又は修正について審議し、最終的な変更について議決し、FASBによる最終的な承認を求めるべきである。
- 移行期間である当初3年間において、PCSIの活動と、PCSIとFASBの相互作用を監督するため、FAFは、評議員会に非公開企業レビュー委員会という特別目的委員会を設置すべきである。移行期間満了後は、その責任は、FAFの会計基準設定プロセス監督委員会が引き受けるべきである。
- 非公開企業レビュー委員会は、会計基準設定プロセスにおいて非公開企業の論点が十分に考慮され、インプットされることを確実にしめるという目的を達成する責任を、PCSIとFASBの両方に負わせるべきである。非公開企業レビュー委員会の委員長は、キャリアにおいて非公開企業について十分な経験とエクスポージャーを有する、FAFの評議員会により指名されたFAFの評議員が務めるべきである。非公開企業レビュー委員会の委員もまた、非公開企業の会計に関す

る論点について十分な経験を有するFAFの評議員が務めるべきである。

- 非営利組織の財務諸表の利用者のニーズは、非公開企業の財務諸表の利用者のニーズと著しく異なる。実際、非営利組織は、財務諸表の利用者の多様性という観点からは、非公開企業よりも公開企業と共通する点が多い。また、FASBは最近、非営利組織に関連する論点を検討するNACを設置した。したがって、FAFの評議員会によるこのたびの提案は、非公開企業の懸念を扱うことに限定している。

非公開企業会計基準改善会議

(1) 権威と重要な責任

PCSIは、非公開企業の財務諸表の利用者のニーズに応えるために、米国会計基準に対して例外又は修正を設けることが必要であるのかを決定する。

この点に関連して、PCSIは、次の重要な責任を負うことになる。

- PCSIは、FASBと共同で、非公開企業のために、米国会計基準に対する例外又は修正が正当化されることがあるのか、また、あるとすれば、それはどのような場合であるのかを判断するための具体的な規準を開発する。
- これらの規準に基づき、PCSIは、そのメンバーが非公開企業のために例外又は修正が必要であると考え既存の米国会計基準の内容を識別する。
- このプロセスを通じて識別された米国会計基準の領域のうち、FASBのテクニカル・アジェンダ

において積極的に再検討されていないものについて、PCSIは、幅広く関係者からインプットを得た上で、FASBのボード・メンバーが出席する会議において、非公開企業の財務諸表の利用者のニーズを満たすことを確実にしめるために、会計基準に対する具体的な変更について審議し、議決する。

- 既存の米国会計基準に対する変更案については、すべて、FASBによる承認と、一般からのコメント募集を含む徹底したデュー・プロセスが必要となる。
- コメント期限到来後、PCSIは、FASBのボード・メンバーが出席する公開の会議において提案された例外又は修正を再審議し、最終的な変更について議決する。変更にあたっては、PCSIのメンバーの絶対過半数（3分の2以上）の賛成が必要である。PCSIの賛成が得られた場合、最終的な承認をFASBに求める。
- FASBのテクニカル・アジェンダにおいて積極的に再検討されている項目について、PCSIは、FASBのボード・メンバー及びスタッフと積極的かつ緊密に作業すること、また、FASBの審議において、FASBのボード・メンバーが検討するにあたって助言を行うことにより、非公開企業のための適切な取扱いについて助言する主たるソースとなる。さらに、PCSIは、FASBが積極的に再検討している論点に関連して、非公開企業のための適切な取扱いについて特定の立場を採るために議決できる。

(2) 構成とメンバー

FAFの評議員会により指名される

PCASICの議長は、キャリアにおいて非公開企業について十分な経験とエクスポージャーを有するFASBのボード・メンバーが務めることになる。FAFの評議員会は、FASBのボード・メンバーをPCASICの議長に指名し、FASBのボード・メンバー全員がPCASICの会議に出席することにより、PCASICとFASBの間に強力かつ直接的な関係が生まれ、PCASICが挙げる非公開企業の論点について、FASBによく聞いてもらえることになる。

FASBのボード・メンバーでもあるPCASICの議長は、PCASICにおいて議決権を有することになる。その他のFASBのボード・メンバーは、議決権を有さないものの、審議されている論点について見解を述べるのが期待される。

PCASICは、議長のほかに、非公開企業の財務諸表の利用、作成、及び監査について十分な経験を有する利用者、作成者、及び実務家を含む11人から15人のメンバーにより構成される。PCASICのメンバーは、FAFの評議員会により指名される。PCASICのメンバーの候補者については、幅広く関心のある関係者から募ることになる。メンバーの当初の任期は3年であり、PCASICの議長とFASBの議長からのインプットに基づき、1年間の延長が2回まで認められる（したがって、任期は最長で5年となる）。PCASICの適切な継続性を確保ならしめるために、メンバーの任期はずらして設定することになる。

FASBのリソースを活用し、作業の重複を避けるため、アウトリーチ及び研究プロジェクトにおいてPCASICをサポートし、緊密に作業するために、FASBのスタッフを割り当てる予定である。

(3) 会 議

PCASICは、年に4回から6回の会議を開催する予定である。会議は、FASBのボード・メンバーが全員出席できるように、コネチカット州ノーウォークにあるFASBの本部において開催することになる。FASBのボード・メンバーによる参加は、PCASICのメンバーの見解の理解を促進し、承認プロセスを効率化することになる。

PCASICの会議はウェブ配信し、一般に公開することになる。ただし、管理的な内容の議論については、非公開で行うことがある。

(4) 監 督

PCASICは、当初3年間は、FAFの非公開企業レビュー委員会に対して、直接、定期的に報告書を提出し、評議員会全体に対しては、四半期ごとに書面による報告書を提出する予定である。3年間の移行期間満了後は、PCASICは、FAFの会計基準設定プロセス監督委員会に対して、直接、報告書を提出し、評議員会全体に対しては、引き続き、四半期ごとに書面による報告書を提出する予定である。

FAFによる会計基準導入後の見直し（PIR）プロセスは、現在の設計の下では、非公開企業の関与と非公開企業からのインプットを含んでいる。PCASICからのインプットと、PCASICの作業の結果として、米国会計基準に対して行った変更に対する導入後の評価を含めることにより、PIRプロセスは更に拡充される。この評価の目的は、公表された会計基準が意図した目的を達成したかどうかを検討することにある。

上記の監督に加え、FAFの評議員会は、PCASICの使命が果たされているかどうか、また、非公開企業のた

めの会計基準設定プロセスをさらに変更する必要があるかどうかを判断するため、3年後に総合的な評価を行う予定である。

検討過程

本文書における提案を開発するに当たって、FAFの評議員会が検討した選択肢には、次のようなものがあった。

1. ブルー・リボン・パネルが提案したような、非公開企業に関する論点のための、自立した、新しい、権威ある会計基準設定主体を、FAFの監督の下に設置する。
2. 修正が必要な会計基準を特定し、具体的な修正案について議決するFAFの監督の下に新しい機関を設立する。修正案はその後、FASBの承認を経て、一般からのコメントを募集する。
3. その役割がFASBに対して助言を行うことに限定された、非公開企業に関する論点を扱う新しい委員会を設置する。
4. 非公開企業のニーズと利害により良く応える、FASBによる既存の及び継続的な取組みの監視を継続する。

FAFの評議員会は、結果として、上記の2を提案することとしたが、この結論に至る上で、次の点を指摘した。

- 2つの会計基準の体系（非公式には「大GAAP」と「小GAAP」と呼ばれている。）を設けることは、望ましいことではない。別個の会計基準設定主体を設置することは、時間をかけてその方向に向かうことになる。
- 非公開企業に対する米国会計基

準の複雑性と関連性に関してFAFの評議員会に伝えられた懸念は、限られた数の重要な会計基準に関連している。したがって、会計基準の改善はまず、これらの会計基準に着目すべきである。

- 非公開企業だけでなく、それ以外の関係者も、同様の懸念を表明していることから、FASBは、複雑性、関連性、及び費用対効果に関する論点について、幅広く対処すべきであり、実際、既に対処している。
- FASBは最近、非公開企業の関係者とのように関与するののかについて重要な変更を行っており、これらの論点を更に扱うための運営上及び組織上の更なるコミットメントを表明した。FAFの評議員会は、それらの取組みが結実するために一定の期間を与えることが適切であると考えており、それらの取組みを注意深く監視している。
- PCFRC設置後、当初数年間は、FASBがプロセスに完全に参加していなかったり、PCFRCの提案に十分に注意を払っていなかったりしたこともあり、PCFRCはその使命を完全に果たせなかった。また、その設置当初、PCFRCによるFASBへの関与は効果的ではなく、非公開企業の関係者の利害を代表していなかった。PCFRCとFASBの関係に欠陥をもたらしたその他の要因としては、非公開企業のために、米国会計基準に例外又は修正を設けるためのフレームワークを開発せず、その内容について合意しなかったこと、及び、共通の目的を達成する上で、PCFRCとFASBの管理プロセスを統合しなかったことが挙げられる。

FAFの評議員会は、FASBと非公開企業の関係者のそれぞれの目的についての共通理解が、FASBの組織体制及びプロセスに組み込まれない限り、非公開企業のための会計基準設定プロセスに意味のある変更を行うことができないと考えている。

関係者に共通する懸念

アウトリーチ・プロセスを通じて、FAFの評議員及びワーキング・グループの代表者との会合において関係者に共通して示された懸念には、次のようなものがあった。

- 実務家及び作成者の一部は、ブルー・リボン・パネルが提案したような別個の会計基準設定主体の設置を支持したものの、そのような見解は広く支持されなかった。実際、当初は新しい権威ある会計基準設定主体の設置を支持した者の多くは、その他の者の懸念を聞いた後に考えを変えている。そのような懸念には、混乱が生じる可能性の高さ、米国会計基準による財務諸表を要求する銀行及び保証会社による新しい会計基準の拒否、会計専門職の2分化、新しい会計基準設定主体の設置と新しい会計基準の公表には何年もかかること、「小GAAP」に基づく財務諸表が「大GAAP」に基づく財務諸表に劣るものであると考えられるおそれが含まれる。
- 多くの関係者は、財務報告における複雑性は、さまざまな形をとり、非公開企業が懸念を抱く現実の問題であると指摘した。しかし、複雑性は、公開・非公開、大小を問わず、すべての企業に影響する

ものである。FASBは、会計基準の公表前に、十分に費用対効果の分析を行っていないと一般的に考えられている。また、FASBは、会計基準が目的を達成したかどうかを検討する体系立ったPIRを実施していない。米国会計基準に基づく財務諸表が、取引の経済的意味を適切にとらえておらず、会計基準が「取引に忠実」ではなく、「現実の経済状況を反映」しないことがあるという懸念がある。一方で、複雑な財務取引には、通常、複雑な会計処理が要求されることは認められた。

- 多くの関係者は、FASBがこれまで非公開企業の懸念に注意を払ってこなかったと考えている。一方で、非公開企業の関係者が、これまで会計基準設定プロセスに積極的に参加してこなかったことも認識された。複数の参加者は、リソースが限られた非公開企業にとって、コメント・レターを作成することが困難で時間がかかることを踏まえ、FASBが非公開企業からのインプットを促進する方法を開発することを提案した。
- このような批判にもかかわらず、参加者のほとんどは、最近のFASBにおける変更は、正しい方向に向かった重要な動きであると考えている。しかし、この改善が持続可能で、永久的なものであるのか、そのときのFASBのボード・メンバーとFASBの関心事に依存するののかについては、懸念を有している。このような懸念に対処するため、FAFの評議員会は、FASBの取組みの監視を継続し、非公開企業の関係者の懸念に対処することを確実にしめるために、FASB

とPCSICの両方に責任を負わせる予定である。

- 非公開企業における問題の全部でないとすれば、そのほとんどを生じさせるのは、6から10の限られた会計基準であることについてコンセンサスが得られている。
- 非公開企業の財務諸表の利用者は、米国会計基準に基づく財務諸表は、証券の引受けや投資の意思決定における有用かつ堅実な出発点を提供すると述べている。実際、米国会計基準に基づく財務諸表は「決定的に重要である」と述べた者もいる。しかし、貸付者や投資家が経営者や外部の会計士に相当程度アクセスできるため、財務諸表は唯一の情報源ではなく、最善の情報源でもない。

おわりに

PCSICの設置に関する提案は、コメント期限到来後、寄せられたコメントを踏まえてFAFの評議員会により再審議される予定である。

なお、非営利組織の会計基準の改善に関しては、2011年10月3日、NACが、非営利組織が寄付者その他の利害関係者に対してその財政をより良く報告し、説明することを可能にする会計基準の変更を提案している。この提案は、公式にFASBのアジェンダに追加する要望書という形でFASBの議長に提出される予定であり、FASBは、この要望書について、2011年秋に公開のボード会議において議論する予定である。

〈注〉

- 1 この報告書の内容については、拙稿「解説 非公開企業のための会計基準設定に関するブルー・リボン・パネルの報告書」(『会計・監査ジャーナル』No. 669、2011年4月号、105～110頁)を参照のこと。

〈参考文献〉

- Financial Accounting Foundation, Board of Trustees, *Request for Comment "Plan to Establish the Private Company Standards Improvement Council,"* October 4, 2011.
- Financial Accounting Standards Board, *News Release "FASB Not-for-Profit Advisory Committee Recommends Improvements to Financial Reporting,"* October 3, 2011.